

晴るばる

JA KITAHARUKA
PR brochure
HARUBARU



謹賀新年

vol. 204

2026. 1月号



令和8年 新年のご挨拶

代表理事組合長 小林 治雄



新年あけましておめでとうございます。組合員の皆様におかれましては令和8年新春をご家族の皆様とともに穏やかに迎えられていることと思ってお慶び申し上げます。また旧年中も地域の農業振興にご尽力いただくとともに多岐にわたる農協事業へのご支援、ご協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。美深、下川、中川、音威子府の4町村の自治体には昨年中も多くのご支援をいただいたことに深く感謝し、組合員を代表してお礼申し上げます。

令和7年を振り返ると、大きな天災こそありませんでしたが全国で局地的な大雪や大雨が頻発、令和6年ほどでは無いものの暑く乾燥した夏になり山林火災も数多く発生しました。このように地域により極端な天候が目立つことは私たち農家にとって非常に懸念されることだと思います。近隣では、8月に天塩・幌延で線状降水帯により6時間で150mm近い記録的な降雨がありました。日頃より災害に対して気を引き締めていく必要を感じさせられました。

第2次トランプ政権発足、自国第一主義にのつとめた関税政策と国際貿易紛争は私たちの生活に大きな影響を与えました。新型コロナウイルス禍・ウクライナ侵略で始まった円安と物価の高騰に追い打ちをかける形になり農家にとっては肥料や飼料、各種資材高騰による生産費上昇の固定化という形でのしかかっていきます。国内では衆議院に続き参議院でも与党が少数となり不安定な政局になりました。それを受ける形で10月に女性初の総理大臣をいただく高市政権が誕生しました。以前より積極財政をうたっていた高市氏は総理就任後も

もくじ



2026. |

小林組合長新年のご挨拶	2
役員新年のご挨拶	3
中央会樽井会長年頭挨拶	4
組織代表者挨拶	5
フォトレポート 美深	7
フォトレポート 下川・中川	8
年末年始業務日程・理事会報告	9
シートベルト着用義務化	10
営農情報	11
警察より・組合員の異動・編集後記	12

ぶれない政策を進めています。今後さらなる円安に進むことも懸念されています。総論としての食糧安全保障や再生産可能な農産物価格の議論はされていますが各論に進むと堂々巡りになってしまいます。ぜひ物価上昇を上回る賃金上昇と経済の好循環につながる政治に期待したいと思います。

令和7年の融雪は平年並みで春先から平均気温が高く各種作物の生育は順調でしたが、6月から7月は少雨で早魃傾向、8月に入ると高温により多くの作目で生育に影響が見られました。さらに8月中旬からは断続的な降雨により二番草をはじめ一部作物において収穫作業の遅れや病害虫の発生等も見られました。

作目別に見ると、アスパラガスは低温と日照不足の影響で収量は減少しましたが高単価に支えられました。もち米は比較的天候に恵まれ平年並みの収量と良好な品質になりました。価格的にも前年の倍近い概算金となっています。秋小麦に関しては、6月からの高温早魃の影響を

受け細麦傾向で歩留まりは悪いものとなりました。一方で初冬蒔きと春播きは収量・歩留まりともに平年並みとなりました。フルーツトマトは高温の影響で出荷が前倒しとなり収量減となりましたが昨年以上の高単価となりました。カボチャは当初弱含みであった価格も後半で持ち直し収量的にも平年並みとなりましたが連作による弊害も見られる年になりました。

このように作目による差異はありましたが突出したもち米を除いても畑作青果に関しては計画に沿う販売額となりました。酪農は期中での乳価上昇もあり販売額を伸ばしていますが生産費の高止まりは続いており、必ずしも所得の上昇には結びついていません。一方で牛乳・乳製品の需要は減退していることから大幅な増産基調には向かえないと思われ、今以上に効率的でコスト意識を持った経営に努めていく必要があると感じます。畜産も依然として配合飼料価格や経費増に

さらされています。肉値は持ち直してきていますが今後も効率的な経営を進めてください。昨年は2012年に続き2度目の「国際協同組合年」でした。相互扶助を基本とし、自助・自己責任・民主主義・平等・公正・連帯…が協同組合の精神ですが現実の国際情勢は正反対の方向に動いています。この風潮は組合員、特に若い組合員の方にも見られます。自らの経営だけではなく地域経済の存続のためにも協同組合活動に積極的に参加しより広範囲のサービスをご利用ください。そのことが皆様の暮らしと地域を守ることにつながる筈です。

今後上川最北の総合農協としてより多くのサービスを守るために事業の効率化・スリム化を進めてまいりますのでよろしく願います。

結びに組合員皆様のご多幸と豊穰の秋を祈念いたしました。新年のご挨拶いたします。

謹賀新年

北はるか農業協同組合

代表理事組合長 小林 治雄

常務理事 岡田 博英

理事 及川 幸雄

理事 竹本 学

理事 内山 敦

理事 竹中 隆

理事 谷口 直喜

理事 荒谷 博文

理事 古川 満之

理事 山下 朋子

理事 伊藤 成人

信用担当理事 松本 芳則

金融部長 松本 芳則

代表監事 佐藤 導謙

監事 草刈 昇一

常勤監事 米村 敏明

管理部長 向井 朋博

販売部長 遠藤 良規

管農部長 丸山 寿幸

購買部長 渡辺 博紀

下川支所長 丸山 覚

中川支所長 塚本 智章

他職員一同

令和8年の 年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会
代表理事会長 樽井 功



新年あけましておめでとうござい
ます。

組合員の皆様におかれましては、
日々営農に更に邁進されておられる
ことと存じます。

また、組合員・役職員の皆様が一丸
となり地域農業の振興や地域社会の
発展に向け、日頃より多大なご尽力を
されていることに対しまして、改めて
敬意と感謝を申し上げます。次第であり
ます。

昨年の北海道農業については、春先
から天候に恵まれ、各作物の生育は全
般的に平年よりも順調に推移してお
りましたが、道内の広範囲において被
害が発生した夏場の記録的な豪雨や
干ばつにより各作物等の収量および
品質に影響が出た一年となりました。
近年、気候変動等による自然災害の
多発や栽培適地の変化、円安基調の継
続や国際紛争等に起因する資材価格

の高止まりが農業経営に大きな影響
を与えており、農業・農村を取り巻く
環境は大きな変革期を迎えておりま
す。

この様な状況の中、昨年7月に実施
された参議院議員選挙において、組合
員・JA役職員をはじめとする多くの
皆様のご支援をいただき、全国農業者
農政運動組織連盟が推薦した東野ひ
でき氏を国政に送り出すことができ
ました。

この一步を重要な礎とし、改正基本
法により基本理念として位置付けら
れた、国民一人一人の食料安全保障の
確保や環境と調和のとれた食料シス
テムの実現、持続可能な北海道農業の
確立に向けて、組合員・JAの声を国
政に届ける活動を継続していきます。
JAグループ北海道は、今後とも組
合員との対話活動を一層強化し、協同
組合の理念と精神を組織結集力につ

なげ、組合員の皆様が夢と希望を持つ
て営農と生活が続けられる環境を整
え、「力強い農業」と「豊かな魅力ある
地域社会」の実現に全力で取り組んで
まいります。

結びになりますが、本年は午年で
す。午年はエネルギーと行動力が高ま
り、挑戦や成長の機会が得られる年と
されています。この謂われにあやか
り、本年が北海道農業の更なる飛躍の
年となることと、皆様のご多幸とご健
勝をご祈念申し上げ、年頭のご挨拶と
いたします。





美深町肉用牛生産振興会

会長 結城 広康

新年あけましておめでとうございます。

日頃より当振興会の活動において、各関係機関、組合員の皆様にはご理解、ご協力いただきまして誠にありがとうございます。

昨年は5〜6月の天候に恵まれ一番牧草の生育が良く10日程早い収穫スタートとなり、収量も例年より多収傾向となりました、二番牧草は7月の早魓の影響で生育不良となり、8月に入って不安定な天候の多い日が続き降雨と日照不足の影響で他の農産物同様に、2番牧草の収穫作業は大変苦労しました。

肉牛市場の情勢は、牛肉の輸出が好調なことと、大阪・関西万博などの大きなイベントもあり人流が回復して消費が延びたおかげで販売価格がコロナ期前に戻りつつあり、総じてまずまずの一年であつたと感じております。

しかしながら依然として円安の状態が続いており、飼料・生産資材・作業機械など生産に係るほぼ全ての物を輸入に頼らざるを得ない我々農業者にとっては、厳しい環境のままであり、石川啄木の『働けど働けど猶・・・』が口からこぼ

れます。

また、少子高齢化が進み北海道の2/3の自治体が消滅可能性自治体となり、北はるかかの正組合員数も500人を割り込み、将来の農村の美しい景観・子供たちの食の安全が憂慮されます、動物に係る酪農・畜産つて楽しそうな仕事だな、食卓を支える農業つて大切な仕事だなど思ってもらえるよう美味しい農畜産物を生産しながら農業の魅力を発信し、一人でも多くの人が農に携わってくればと思います。

最後になりますが、本年も美深町ふるさと秋祭りでの炭火焼肉の販売、食育活動として給食センターなどへの食材贈呈等を通して、微力ではありますが地域の活性化に貢献して参りたいと思います、今後とも美深町肉用牛生産振興会への一層のご支援、ご指導を賜りますことをお願い致します。

皆様のご健康とご多幸をお祈りいたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



JA北はるか下川地区そば生産組合

組合長 黒川 仁一

謹んで新春お慶び申し上げます。

また、日頃より当生産組合の活動につきまして、ご理解とご協力を賜り、心よ

りお礼申し上げます。

昨年は、融雪も平年並みに進み、耕起・播種作業は比較的順調に進めることができました。しかし、6月から7月中旬にかけては、降水量が少なく高温傾向で推移、以降は、時折激しい風雨の影響から収穫期には多くの圃場で倒伏したため、地区全体の収量は昨年を大きく下回る結果となりました。

また、近年増えているイヌホウズキだけではなく雑草の姿も目立ち、これらも収量を落とす原因となったものと思ひ、また一つ課題が見えた年となりました。

令和8年につきましては、販売先から大変良い評価をいただいているキタミツキの生産に向け播種時期、雑草対策などの課題を組合員の皆様と検討し、収量の向上に 繋げていきたいと考えております。

今後とも関係者各位のご協力、ご指導を何卒よろしくお願いを申し上げますとともに、皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。



北はるか酪農振興協議会中川部会

部会長 丸藤 英介

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年中は、酪農振興協議会の活動に対

し、会員各位をはじめ関係各方面の皆様より多大なるご理解とご支援を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

さて、北海道の酪農を取り巻く情勢は、飼料価格や資材価格の高止まり、燃料費の上昇、人手不足の深刻化など依然として大変厳しい状況が続いております。加えて、気候変動による生産環境の変化も生乳生産や経営に大きな影響を及ぼしております。

このような中であっても、日々生乳生産に真摯に向き合い、地域酪農を支え続けてこられた会員の皆様のご尽力に、改めて深く敬意を表する次第であります。

本年は、将来にわたり北海道酪農を守り発展させていくため、各経営が自らの経営状況と向き合い、自ら10年先を見据えた中期酪農経営事業計画を策定し、持続可能な経営の確立に向けて具体的な歩みを進めていくことが、これまで以上に重要な一年となります。経営基盤の安定、担い手の確保・育成、飼料自給率の向上、生乳需給の安定と消費拡大への取り組みなど、一つ一つを着実に積み重ねていく必要があります。

結びに、会員並びに関係各位の皆様のご健勝とご多幸、そして本年が酪農業界にとって希望の持てる一年となりますことを心よりご祈念申し上げます、新年のごあいさついたします。



北はるか青果生産振興会 アスパラ部会

部会長 山下 博史

謹んで新春のお慶びを申し上げます。平素より当アスパラ部会の活動にご理解とご協力を賜り、心から御礼申し上げます。

昨年は、融雪はほぼ平年並みで露地アスパラは5月中旬頃より順次収穫が始まりましたが、低温・日照不足の影響が大きき、例年より早い段階での収穫終了を決めた圃場もあり、収穫量は昨年よりも減少となりました。一方で販売価格は市場で堅調に推移し、最終的には計画を上回る事が出来ました。ホワイトアスパラも、グリーン同様に収穫量は減少致しましたが、市場相場が高単価で推移し、またギフト需要も好調でこちらも計画を上回ることができました。

毎年の異常気象ともいえる環境の中で、組合員にとって決して平坦ではないシーズンだったと思います。そのような状況においても、会員の皆様が懸命に品質向上の取り組み、JA職員、役場・普及センターより力強く支えてくださったおかげで、北はるか産地としての安定生産と出荷の継続を実現することができました。改めて深く感謝を申し上げます。

令和8年度も、アスパラ産地としての持続性を保つため、基本技術の徹底として、土壌診断、適期施肥・防除や、慣らし会の実施、また必要に応じてアスパラ株の更新・育成を重点とし、技術の共有を進めて安心して生産を続けられる体制づくりを進めていく一年としたいと考えております。

また、関係機関との連携をこれまで以上に強め、地域一体となって「北はるかアスパラ」の価値が更に高まるよう、そして消費者に喜んでもらえるような、安全で新鮮なアスパラガスをお届けしてまいります。

本年が皆様の健康と実りに満ちた一年となりますよう心より祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



北はるかもち米生産組合下川部会

部会長 小原 意玲

新年あけましておめでとうございます。

日頃より当組合の活動に対し、関係機関および組合員の皆様には、ご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

昨年のもち米生産は、は種および田植え作業がおおむね平年並みに行われ、その後の生育も順調に推移しました。止め葉期以降は高温の影響により、生育が早まりました。

北はるか農協におけるもち米の収穫量は、全体平均で反当たり9.6俵となり、成熟は早かったものの、品質面では比較的良好な結果となりました。

また、国内ではうるち米の価格が高止まりしており、これを背景に、もち米の買取価格も引き上げられております。こうした状況を踏まえ、安定した収量と品質の確保に努めながら、JA北はるか産もち米の信頼向上を目指し、組合員一丸となって取り組んでまいります。

結びに、関係機関ならびに組合員の皆様におかれましては、今後ともご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。とともに、皆様のご健康とご多幸、そして本年が実り多き一年となりますことを祈念し、新年の挨拶といたします。



北はるか農協青年部

部長 中瀬 祥吾

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、北はるか農協青年部の活動に対し格別のご支援とご協力を賜り、心

よりお礼申し上げます。昨年は、天候不順や農業資材の高騰など、地域農業を取り巻く環境は依然として厳しい状況にありました。そのような中にあっても、私たち青年部は、地域農業の将来を担う若手農業者としての自覚のもと、研修活動の充実、地域貢献活動への参画、次世代に繋がる担い手育成など、様々な取り組みを進めて参りました。

これらの活動が着実に推進出来ました事は、ひとえに日頃よりご指導、ご協力を賜っております関係機関の皆様のお力添えがありました事を、改めて深く感謝申し上げます。

本年も、地域農業の持続的発展に向け、青年部として一層の研鑽を重ね、より活発な活動を展開してまいります。引き続き、皆様のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

皆様のご健勝と益々のご発展を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。



美深

もち米生産組合 収穫感謝祭開催

12月11日、びふか温泉にて北はるかもち米生産組合の主催により収穫感謝祭が開催されました。

当日は美深・下川両地区の生産者や町役場、普及センター、共済組合、ホクレン等の関係機関とJA職員を併せて38名が集まり無事に実りの秋が迎えられたことをお祝い致しました。

感謝祭の前段には学習会として上川農業改良普及センター上川北部支所 永山地域係長より「令和7年度もち米の生育概要等について」、ホクレン旭川支所 米穀課 太田担当より「もち米情勢等について」と題して講演が行われました。

学習会終了の収穫感謝祭では、はじめに北はるかもち米生産組合 後藤博孝組合長より「春先の低温や夏場の高温などの影響がありました、本年度の反収は9.6俵と平年並みを確保することができました。皆様の日頃の管理作業や、関係機関の皆様のご協力に改めて感謝申し上げます」と開催の挨拶がありました。

来賓の美深町 草野町長、上川農業改良普及センター上川北部支所 菊池支所長、当JA小林組合長の皆様より祝辞を頂き、感謝祭は美深町議会 南議長の乾杯の掛け声により祝宴が始まりました。

参加者は互いの苦労をたたえ、出来秋を喜び合うと共に来期に向けての英気を蓄えていました。

最後に、美深土地改良区 中瀬理事長より閉会の挨拶として「来年もまた皆様と顔を合わせ、良い出来秋を迎えられますように」と一本締めにて閉会いたしました。



美深

北はるか青果生産振興会美深部会が市場交流会を開催！

11月18日、北はるか青果生産振興会にて取引市場との意見交換会を開催いたしました。市場担当者、ホクレン旭川支所職員、生産者、町職員、JA職員等計43名が参加し、びふか温泉にて行われました。

栽培技術講習会は、上川農業改良普及センター上川北部支所の長谷主査より「かぼちゃの生育と今後の対応について」の講習があり、夏場の高温や集中降雨などの対策及び品質の安定について学びました。

その後、市場交流会では東京青果株式会社様を始めとした道外7社・道内2社の主要取引市場の担当より、それぞれの市場評価や市況概要、

今後の要望などについて説明した後、生産者との意見交換が行われました。

今回の会は生産者と市場担当者、各関係機関の皆様が直接交流する貴重な機会として、今後の生産・販売活動において非常に有意義な交流となりました。



美深

上川地区及び全道JA青年部大会が開催！

11月11日、旭川トヨーホテルにて「令和7年度 上川地区JA青年部大会」が開催されました。

地区大会では若手農業者の経験や伝えたい思いを発表する「青年の主張大会」や「活動実績発表」、北海道農業のPR役オーディション「純農Boyコンテスト」等が開催される中、消費者への情報発信力を競う「動画で発信！農の魅力30秒CMコンテスト」にて、見事北はるか青年部が最優秀賞に輝きました。

12月4日には、2日間にかけて札幌パークホテルにて「第74回 全道JA青年部大会」が北海道農協青年部協議会主催のもと開催され、盟友約800人参加となった本大会は高見会長のご挨拶で開会となりました。各地区代表の発表が進行していく中、JA北はるか青年部の動画は、動画上映される上位10選には惜しくも落選してしまいましたが、上映された動画はどの動画もインパクトに残る動画でした。その中、最優秀賞に選ばれたのはJAうらほろ青年部の作品となりました。上川地区からは、JA青年部活動実績発表でJAたいせつ青年部 高橋拓己さん発表「想いで繋ぐ田んぼアート～父の世代から私たち世代へ」が見事最優秀賞に選ばれ、令和8年1月20日開催の東北・北海道大会への進出が決まりました。

最後に令和7年度の活動経過報告が行われ、「Step For The Future～つなぐ想い、ひらく未来～」を大会テーマに、組織一丸となって意思の結集と

更なる取り組みの強化を確認した。また、年間活動テーマである「伝えよう食のおいしさと農の価値を」を胸に、我々は北海道農業の魅力を広く発信し、消費者の皆様と想いをつなぐ努力を重ねることで食と農の大切さを次世代へつなげて行くこと。そして、一人ひとりが考え、行動し困難に直面した時には盟友同士支えあい、JAとも共に考え行動する。そしてその活動のさきに行政へと意思を示す。この「自助・共助・公助」の精神を軸に、青年部活動を継続し、日本の食料基地として、未来へと繋がる豊かな食を提供し続けていくことを宣言し、大会が終了しました。



下川

外国人技能実習生（耕種）送別会

11月上旬、下川町 五味温泉にて、外国人技能実習生受入協議会による送別会が行われました。

実習生は4月に下川町に入り、日本語講習や生活習慣等の講習を受けた後、各受入農家へ実習に入りました。

実習期間中に各品目の播種・定植作業や夏場の暑い時期の収穫作業などもありましたが、とても一生懸命に実習作業に取り組み当町の農業について学んでおりました。また受入農家の方々とも打ち解け充実した実習になったと思われます。

今回の送別会は男性6名、女性6名の耕種実習生であり約7ヶ月間で終了となりました。

また、実習生は11月7日に帰国となりましたが、帰国当日には受入農家の皆さんも見送りに来ており、下川

町での思い出などもあり別れの寂しさが募っているようでした。



中川

幼児センターへ農産物寄贈

10月30日にもち米・南瓜等の農産物寄贈を中川町幼児センターに行いました。

受取った幼児は30名程で小林組合長から手渡し、小さな体で重たい南瓜などを頑張って受け取っていました。幼児は大きな声で「ありがとうございます!」と感謝の気持ちと笑顔で返し、ほほえましい光景を

今年も見ることが出来ました。

地域貢献活動の一環として行われている農産物寄贈ですが、未来ある子供たちの様子を見ると、小さな活動ではありますが大きな意味と可能性を感じた瞬間でした。



中川

中川町議会との懇談会を開催

中川地区農業者と中川町議会（経済常任委員会）との懇談会が11月27日に支所会議室で行われました。参加者は町議会議員3名・農業者10名となり、今後の農業及び地域の問題点を議題とした意見交換を実施致しました。

現状の農業情勢を共有しながら、スマート農業の導入に向けた対策支援やマスメディア・SNS等で発信されている熊・鹿の鳥獣被害など、今後も農業振興と地域発展にお力添えいただけるよう要望致しました。参加いただいた皆様お疲れ様でした。





年末年始 業務日程

		12月			1月					
		29日 月	30日 火	31日 水	1日 木	2日 金	3日 土	4日 日	5日 月	6日 火
本所	一般事務	営業	12時迄	休	休	休	休	休	休	営業
	貯金・共済窓口 (クミカン)	営業	15時迄	休	休	休	休	休	15時迄	営業
	ATM	営業	15時迄	休	休	休	休	休	15時迄	営業
	資材店舗	営業	12時迄	休	休	休	休	休	休	営業
	機械センター	営業	12時迄	休	休	休	休	休	休	営業
	セルフスタンド	営業	営業	12時迄	休	休	休	休	休	営業
下川支所	一般事務	営業	12時迄	休	休	休	休	休	休	営業
	貯金・共済窓口 (クミカン)	営業	15時迄	休	休	休	休	休	15時迄	営業
	ATM	営業	15時迄	休	休	休	休	休	15時迄	営業
	資材店舗	営業	12時迄	休	休	休	休	休	休	営業
	スタンド	営業	12時迄	休	休	休	休	休	休	営業
中川支所	一般事務	営業	12時迄	休	休	休	休	休	休	営業
	貯金・共済窓口 (クミカン)	営業	15時迄	休	休	休	休	休	15時迄	営業
	ATM	営業	15時迄	休	休	休	休	休	15時迄	営業
	資材店舗	営業	12時迄	休	休	休	休	休	休	営業
	スタンド	営業	12時迄	休	休	休	休	休	休	営業

1月から就業時間を
変更いたします。

《変更後》

部 門	4月~10月	11月~3月	休憩時間
事務所・信用・共済 資材店舗・整備	8:30~17:00	9:00~17:00	内1時間

理事会報告

第10回 理事会 11月28日(金)

■決議事項

- 議案第1号 職員就業規則(就業時間)の変更について
- 議案第2号 営農懇談会の日程及び提出資料について
- 議案第3号 クミカン精算時における融資及び仮渡金の対応について
- 議案第4号 コンプライアンス・マニュアル等の改正について

■報告事項

1. 10月末 決算推定の結果について
2. 令和7年度 収支シミュレーションについて
3. 理事と組合の利益相反契約の包括事前取引にかかる報告について
4. マネロンリスク管理にかかる状況報告について
5. 年末手当の支給について
6. 各部からの報告事項について
7. 営農推進会議の結果報告について

1月行事予定

1月27日(火)

第7回監事会/第12回 理事会

シートベルト着用 義務化



道路運送車両の保安基準改正^(※)により、乗用型トラクタで道路を走行する際には、シートベルト着用が義務化されます。 ※令和7年6月17日公布



義務化はいつから？

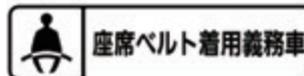
令和9年1月1日 からです。

どのトラクタが対象？

令和9年1月1日以降に **製造された座席を有するトラクタ**は、**大型特殊自動車**
・**小型特殊自動車**に限らず対象車となります。

対象のトラクタには、ボンネット側面に座席ベルト着用義務車を示すステッカー^(※)が貼付されます。

※ステッカーのイメージ



違反した場合は？

シートベルトの着用義務違反として、**点数1点**が付されます。



令和7年を振り返って

令和7年は春先から平均気温が高く各種作物の生育は順調でしたが、6月から7月は少雨、8月は断続的な降雨により一部作物において収穫作業の遅れや病害虫の発生等も見られました。各種作物の状況を振り返り、令和8年の生産に生かしましょう。

水 稲

5月上旬に育苗ハウスを巡回し、一部のハウスで生育不良がみられました。育苗床土も定期的に土壌診断を行い、診断結果に基づいた適正施肥を実施しましょう。ここ数年、6月上旬からイネドロオイムシの発生ほ場が多くなっています。発生量が多かったほ場は、次年度に向けて移植前の育苗箱施用を検討しましょう。夏季が高温多湿だと紋枯病や疑似紋枯症の発生が多くなります。防除が必要な発生状況は、成熟期の病斑の発生している高さで判断します。収穫期の止葉葉しょうに病斑が見られた場合、次年度の防除を検討しましょう。



疑似紋枯症 初期葉しょう病斑

園 芸

8月5半旬よりかぼちゃほ場の一部で『疫病』の茎葉への発生が確認され、その後蔓延し腐敗果が発生しました。かぼちゃ疫病の病原菌は高温性で、高温多湿の環境下が好適条件となっており、本年は8月から高温時の降雨が多い傾向であったことから発生を助長したと考えられます。疫病は収穫後のキュアリング中や出荷後にも果実に発病しますが、キュアリング期間14日程度で発病果実を概ね除去できますので、収穫後日数をしっかり確保し発病果実を選別した後出荷するようにしましょう。



ほ場での発生の様子
葉に水浸状の病斑を生じ、感染果実は表面に白色粉状のかびを生じる

畑 作

秋まき小麦では、赤さび病の発生が目立ちました。5～6月に高温多照だと発生が多くなる傾向にあります。防除時期は止葉期（5月下旬）と開花期（6月上旬、赤かび病と同時防除可能）なので、5月中旬から葉に病斑が見られないか確認しましょう。小豆では「ツメクサガ」「アズキノメイガ」「マメノメイガ」が代表的な鱗翅目の害虫です。特に「アズキノメイガ」と「マメノメイガ」は子実を食害し、減収の要因になります。「マメノメイガ」は「アズキノメイガ」よりも遅い時期まで加害を続けるため、発生状況を見ながら防除を継続するか検討しましょう。



小麦の赤さび病 病徴

飼料作物

【牧草】今年5月中旬よりハルガヤの出穂が目立つほ場が多く見られました。ハルガヤはチモシーの生育を抑制しますので、草地更新は除草剤による前植生及びは種床処理を行いましょう。

【飼料用とうもろこし】6月から8月1半旬までの少雨により多くのほ場で葉が筒状に巻く生理障害「オニオンリーフ」が見られました。また8月以降アワノメイガの幼虫による子実の食害が見られました。幼虫のフンが付着した子実が多く見られ、食害はカビの発生源にもなるため、コーンサイレージ開封後や取り出しの際はカビの有無を確認し、取り除きましょう。



アワノメイガ食害の様子
(子実に黄褐色のフンを出す)



1 雪による事故の防止

慣れた雪かき危険がいっぱい

○ 早めの冰雪下ろしを

例年、屋根からの冰雪の落下により、下敷きになるなどの事故が発生しております。

冰雪が屋根からせり出している軒下などは、危険ですので近づかないようにしましょう。また、冰雪は早めに下ろして、落冰雪による事故を防止しましょう。

○ 雪下ろし作業は複数で行い安全確保

例年、屋根の雪下ろし中に、ハシゴや屋根から転落する事故も発生しております。

作業するときは、補助者を置くなど複数で行うとともに、転落防止や万が一のときに備え、万全の措置を講じ、自身の安全を確保しましょう。

○ 除雪機に注意

例年、除雪機による除雪作業中に、衣類を巻き込まれたり、下敷きになるなどの事故も発生しております。

除雪作業時は、作業に適した服装を着用し、エンジンを掛けたまま雪詰まりを取り除くなどの作業は絶対にやめましょう。

2 冬道での交通事故の防止

ストップ・ザ・交通事故

～変化する天候・路面に合わせた運転を！～

○ スピードダウンと慎重な運転

冬道には、圧雪、アイスバーン、ブラックアイスバーンなど様々あり、どの路面でも車はすぐに止まることはできません。時間帯や場所によって道路状況は変化し、スリップ等による正面衝突や路外逸脱事故、追突事故が発生する可能性がありますので、スピードダウンと道路状況に合わせた慎重な運転に努めましょう。

○ 時間に余裕を持った運転

天候や道路状況により、目的地まで予想よりも時間が掛かる場合があります。時間に余裕がないと、先を急いで安全確認が疎かになるなど交通事故に繋がる可能性がありますので、事前に目的地までの道路状況や天候を確認して、時間に余裕を持った行動を心掛けましょう。

○ 悪天候に注意

吹雪による視界不良やホワイトアウトなどが発生した場合には、多重衝突など重大な交通事故に繋がる可能性があります。悪天候の場合は不要不急の外出は控えるようにし、突然の視界不良等が発生した場合でも慌てることなく、スピードダウンで安全運転に努めましょう。また、万が一の立ち往生等に備えて防寒具やスコップ等を車に準備しておきましょう。

組合員の異動

令和7年11月30日現在
※() 前号比

地区名	正組合員数	准組合員数
美深・音威子府	(-1名) 257名	(-1名) 527名
下川支所	(-2名) 137名	(-1名) 174名
中川支所	(±0名) 65名	(-2名) 161名
合計	(-3名) 459名	(-4名) 862名
	1,321名	

編集後記

私事ながら、「よその子のつまらない話」に1年半に渡り読者の皆さまにお付き合い頂いた申し訳なさど多大なる感謝を抱きながら、共働きの息子の白紙の母子手帳替わりに公私混同で綴らせて頂きました。(H・T)